

第12回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議

議事要旨

1. 日時：平成28年7月19日（火）10:00～11:40

2. 場所：国立情報学研究所 19階会議室

3. 出席者：

（委員館）

喜連川所長，安達副所長，漆谷学術基盤推進部長，酒井学術基盤推進部次長（以上，国立情報学研究所），堀副館長，尾城事務部長（以上，東京大学附属図書館），江川学術情報部長（筑波大学附属図書館），深澤館長，荘司事務部長（以上，早稲田大学図書館），赤木所長，風間事務長（以上，慶應義塾大学メディアセンター）

（陪席）

岩田総務部長，亀井学術基盤課長，細川学術コンテンツ課長，大向学術コンテンツ課コンテンツシステム開発室長・図書室長，小陳図書館連携・協力室長，吉田学術コンテンツ課副課長，服部学術コンテンツ課支援チーム係長，上村学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，阪口学術コンテンツ課学術コンテンツ整備チーム係長，片岡学術コンテンツ課研究成果整備チーム係長，田口学術コンテンツ課研究成果整備チーム係長（以上，国立情報学研究所），甲斐事務部長・これからの学術情報システム構築検討委員会委員（京都大学附属図書館），富田事務部長・機関リポジトリ推進委員会委員長（北海道大学附属図書館），玉井学術基盤整備室参事官補佐，菅原学術基盤整備室大学図書館係長，立原学術基盤整備室大学図書館係（以上，文部科学省研究振興局参事官），木下総務課長，熊淵情報管理課長（以上，東京大学附属図書館），岡部情報企画課長（筑波大学附属図書館），中川学務・教務部学術情報課学術情報担当係長（横浜市立大学学術情報センター），本間総務課長（早稲田大学図書館），関本部課長，岡野本部主任（慶應義塾大学メディアセンター）

4. 議事：

（報告事項）

（1）前回議事要旨案について

慶應義塾大学赤木委員長より，前回議事要旨は既に確定済みである旨の確認があった。

（報告事項）

（2）大学図書館コンソーシアム連合（JUSTICE）の活動について

国立情報学研究所（以下，NII）小陳室長より，資料2に基づいて報告があり以下の質問があった。

- 「論文数およびAPC支払額の推移」について，フルOA誌掲載論文数の増え方が微増であるのに対して，APC支払額は2年間で倍増に近い。これは，ハイブリット誌のOA論文が増えていることが理由か。また，今後APC支払額はどのような増え方をすると予測されるか。

➤ 現時点ではまだフルOA誌のみのAPC支払額を集計しているため，ハイブリット誌

は含んでいない。支払額増加の要因は詳細な分析が必要だが、投稿先の雑誌の変化もその一つと推測される。支払額がどのように増えていくかは、3年分のデータだけでは予測が難しい。

- 「図書館資料費の推移：国公立大学1大学あたりの平均額」について、「図書」の経費が減少していることは学生の利用に影響を与えているように思われる。日本の特殊事情なのか。アメリカでも同様の状況なのか。もしくは出版業界自体の縮小に依るものなのか。
 - ▶ アメリカの大学でも図書館資料費があまり増えていないと聞いているが、図書購入経費の推移は把握できていない。
- 学生が図書を読まなくなっている傾向もある。学生の情報収集や学習の源がどのようにシフトして行っているか調査することも有益である。

(報告事項)

(3) 機関リポジトリ推進委員会の活動について

北海道大学富田部長より、資料3-1から3-3に基づいて、推進委員会の活動と、オープンアクセスリポジトリ推進協会の設立について報告があった。

(報告・審議事項)

(4) これからの学術情報システム構築検討委員会の活動について

京都大学甲斐部長より、資料4-1から4-2に基づいて、これからの学術情報システム構築検討委員会（以下、これから委員会）の活動について報告及び説明があり、以下のような意見交換の後、NACSIS-CAT/ILLの軽量化・合理化についての基本方針が承認された。

- NACSIS-CAT/ILLに依存している図書館に対して、図書館システムの入れ替え等、何か特別な対応や費用が発生する可能性はあるのか。
 - ▶ 基本方針では既存システムで対応できるよう配慮する旨が記載されている。今後、具体的な影響について調査を実施する予定である。
- 書誌データのフラット化に伴い、各大学の階層構造を持つ既存データとフラットな新規データが共存するイメージなのか。それとも既存データもすべてフラットに変更するイメージなのか。
 - ▶ 過去の書誌データも遡及的に階層構造を変更する必要があるのかという点については、重要な問題であり前回の議事要旨でも記録されているが、いつかは実施しなければならないことであると認識している。
- 基本方針を決めてから、詳細（ベンダーに対応を依頼等）を詰めるという順番で問題はないのか。
 - ▶ 図書館システムというより、運用上の問題を解消するため、今後の日本の図書館の書誌作成方針を決めることは良いことと思われる。但し、既存の書誌データの移行の問題もあり、さらには今後、システム設計的な方向性（電子資料データ（ERDB）との整合性等）の検討も必要になってくると思われる。
 - ▶ NACSIS-CAT/ILLについては、基本方針に基づき、移行の問題も含めて作業部会で

具体的な検討や作業に着手していく。また、今後の学術情報システムの方向性については、これから委員会で議論を続けていきたい。

(報告事項)

(5) SCOAP³タスクフォースの活動について

東京大学熊淵課長より、資料 5-1 から 5-3 に基づき、7 月中に全大学に対してフェーズ 2 に向けた状況を文書で報告し、9 月に参加意向確認を行う予定であることが報告された。

(報告事項)

(6) 国立情報学研究所の最近の動向

NII 細川課長より、資料 6 に基づいて、学術コンテンツ事業の最近のトピックスについて報告があった。

(報告事項)

(7) 国公立大学図書館協力委員会の最近の動向

慶應義塾大学関課長より、資料 7-1 に基づき、協力委員会のもとに設置されているワーキンググループやタスクフォースの活動について報告があった。

また、東京大学尾城部長より、資料 7-2 に基づいて、国立大学図書館協会が策定し、今年 6 月の総会で正式に採択された「ビジョン 2020」の紹介があった。

- これから委員会と同様、今後目指していく理想像を根源的に考える場を持つことは良いことだと思われる。今後は、著作権問題も含めて、研究者に向けどのようなサービスを提供していくかという観点での議論についても望みたい。

(8) その他

NII 喜連川所長より、今年 4 月より本格運用を開始した SINET5 について紹介があった。

以上